事例No.	2066
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	青森県

事例区分	DX

タグ	・EBPM ・（行政改革）業務の効率化 ・ICT

事例種類	農林水産業

事例内容・タイトル

リモートセンシング技術等を活用した米の安定生産によるブランド化

出典

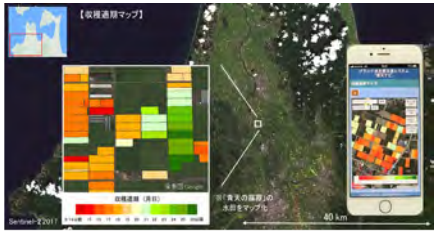
地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

86 リモートセンシング技術等を活用した米の安定生産によるブランド化【青森県】

事業の概要

○　青森県は、ブランド米である「青天の霹靂」の安定生産やブランディングを図るため、リモートセンシング技術等を活用したシステム(青天ナビ) を構築した。

○　青天ナビは、米の収穫量や玄米タンパク質含有量等のデータを集計・分析するとともに、衛星画像解析により収穫適期のマッピング等をすることができる。これにより、県は、生産者へのデータに基づく指導や米の品質管理を行うことができ、安定生産やブランド化につながっている。また、生産者も青天ナビを活用することで、自身のほ場(水田)に関するデータを知ることができる。



マッピング（青天ナビ）

○　県は、「青天の霹靂」以外のあおもり米についても今後、リモートセンシング技術等のデジタル技術を活用した支援を広げる方針である。

【参考情報①】 人口：126.0万人　関連URL：https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/nourin_sougou/syokai/smart.html
（(独)青森県産業技術センターHP）

【参考情報②】地方創生推進交付金（内閣府）とは
URL：https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/souseikoufukin.html

【参考情報③】第11回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード2022　農林水産大臣賞）
URL：https://www.innovation-network.jp/recent/2022061500075

もっと知りたい！　担当者にインタビュー



（総務省）

取組の経緯・きっかけを教えてください。

平成27年にデビューした「青天の霹靂」のブランド化を進めるため、栽培管理の見極めや労働力不足などの課題解決策のひとつとして、衛星画像を活用した栽培支援システムの開発に取り組みました。



（青森県（青森県産品PRキャラクター「決め手くん」））



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？

リモートセンシング技術を活用した収穫適期マップなどの利用実証に農林水産省の革新的技術開発・緊急展開事業（平成28年度から４年間）を活用したほか、「青天ナビ」システムの構築などに内閣府の地方創生交付金（平成28年度から令和３年度のうち５年間）を活用しました。





導入の効果を教えてください。

収穫適期や玄米タンパク質含有率等の情報を元に、生産者やほ場にあわせたきめ細かな指導が可能になったことで、収量の増加や品質の向上、デビュー以来７年連続の食味ランキングの特Ａ評価獲得などにつながり、県産米全体をけん引するブランド米としての役割を担っています。



★担当：青森県農林水産部 農産園芸課★

令和3年度事業費　14,258千円
（うち、地方創生推進交付金（内閣府）　3,600千円）